

海の生き物たち

◆土佐湾で鯨の生態調査

黒潮町沖で見られる、ニタリクジラ、ハナゴンドウ、マイルカ。

(独)水産総合研究センター遠洋水産研究所は、国際的資源の持続的利用を実現するために調査と研究を行っており、毎年夏に黒潮町で土佐湾(高知県)沿岸性鯨類個体識別調査を実施しています。

今年も7月末の6日間、朝8時から午後5時まで足摺岬から宇佐にかけての土佐湾南西部沿岸域の調査を行いました。大方遊漁船主会の協力により、漁船2隻で海に出ます。

調査の目的は、特にニタリクジラを対象に、移動、回遊、出現履歴などを追跡するための個体識別情報を集めることです。



まず、クジラ
の目撃情報を頼りに沖へ出て、双眼鏡や目視で水平線あたりを見つめます。クジラが水面へ出てくると、ブロー

ー(潮吹き)が上がるので、それを探すのです。

ブローを見つけると、一目散にクジラのもとへ船を走らせませす。個体識別のためには、クジラの近くで写真撮影をする必要がありますが、クジラは、数分で再び海にもぐってしまうので、撮影チャンスはごくわずか。調査員の皆さんは、その短い時間で資料写真をばっちり撮影していました。



クジラの個体は、背びれや体の傷などで識別します。特徴のない個体は識別が難しいそうです。(砂浜美術館提供)

毎年調査を続けることで、同じ個体が毎年目撃されたり、一頭で泳いでいたのが翌年は親子連れで現れたり、クジラの生態を知ることができます。今回の調査でも、複数のクジラの個体識別ができました。

◆中学生のホエールウォッチング

7月8日、大方中学校3年生の授業の一環として、ホエールウォッチングが実施されました。

この授業は、①地域の方々とのふれあい、②自然を大切にすることを育む、③ふるさとへの誇りを持たせる、を目的としたもので、授業を通して黒潮町の地域・自然・産業について学びます。

当日は晴天に恵まれ、波も比較的穏やかで、絶好のウォッチング日和となりました。



イルカを発見して歓声を上げる生徒たち。

入野漁港を出発して1時間半ほど、推定400〜500頭のマイルカの大群と遭遇しました。船上の生徒達は、イルカが海面から顔を出すたびに大歓声をあげ、人

懐っこいイルカに、みな笑顔が溢れていました。

残念ながらクジラに出会うことはできませんでしたが、黒潮町が誇る自然の雄大さ、生命の神秘さを肌で感じた一日となりました。

帰港後は、授業に協力していただいた砂浜美術館と船主会の方に感謝の意を述べて解散しました。

◆アカウミガメの卵がふ化

8月9日の朝、入野海岸のふ化場で、アカウミガメの卵がふ化しました。7月の台風で水浸しになったにもかかわらず無事にふ化した子ガメは、6月7日に産卵された子ガメをサークルの親子らが、子ガメをバケツで運び、波打ち際に放流しました。小さな手足を必死に動かして海へ向かう子ガメの姿は、力強く感動的でした。



朝日に向かって進む子ガメ。砂浜には帯状の足跡が。

